

研修Ⅰ 仲多度・善通寺

「知識・技能の明確化と意欲的に言語活動に取り組ませるための工夫」

「いろいろな角度から考えて、自分の考えを整理し、すじ道を立てて書こう。」

「考えをまとめて書こう」(5年)

司会者 仲・白方小学校教諭

提案者 善・竜川小学校教諭

仲・琴平小学校教諭

指導者 善・中央小学校教頭

1 提案の概要

(1) 主張点の説明

- ・ 表現力(書く力)を支える習得させたい知識・技能を明確にすると共に、その価値を児童自身に納得させることで、知識・技能の効果的な習得が期待でき書く力がアップする。
- ・ 単元構成を工夫することで、作文(意見文)に対して抵抗のある児童も、単元を通して「書きたい。」という意欲をもち続けることが期待できる。

(2) 実践発表

○ 実践における指導の工夫

- ① 相手意識と目的意識をもたせて題材を選ばせる。
- ② いろいろな角度から考えさせるためにディベートを行う。
- ③ 教科書教材文の書きぶりのよさについて話し合わせ、そのよさを納得させる。
 - ア 3つの段落構成 イ 接続語の効果的な使用 ウ 引用による説得
 - エ 文末表現の工夫 オ 比較しながらよさや問題点を述べる
 - カ 読者の興味を引きつける書き出しの工夫(既習の説明文を振り返り、パターンごとに子どもたち自身がネーミングする活動も行った。)
- ④ 考えを整理しやすいように、構成メモの形式を工夫する。

例示や引用のポイントなどを示した「お助けシート」の使用により、「自分が何を伝えたかったか」という目的に振り返りながら活動することができた。
- ⑤ 学んだ書きぶりのよさが表現に生きる効果的な交流の場をもつ。

③で学習した6つのポイントに照らし合わせながら振り返りや交流をさせることで、自分の考えがより強く伝わる意見文の完成を目指した。

2 成果

- ・ 取材メモ作りの際にミニディベートを行ったことで、いろいろな角度から考えることができ、ものの見方や考え方に広がりが見られた。ディベート単元を先に学習していたことが生かされた。
- ・ 「もし、教材文で使われていた引用がなかったらどうだろうか」と考えたことで、引用という方法が読み手を納得させる手法であることを実感することができた。依頼文作りの学習の際には、多くの児童がこの手法を活用することができた。
- ・ 教材文の書きぶりのよさを学ぶ際に、書き出しの工夫にはパターンがあることに子ども自身が気づき、それぞれに「〇〇系」と名前を付けながら、楽しく主体的に学習した。その成果か、説明文を読む際に筆者の書きぶりに興味をもったり、自分が文章を書く際にパターンを意識して使おうとしたりする姿が見られるようになった。

3 課題

学習後、代表委員会の予告文を書かせる機会があったが、機会を生かせたのは、一部の児童のみであった。学んだことが生かされ、目的をもって意見文が書けるような場を設定していきたい。

実践事例 第5学年 単元名 考えをまとめて書こう

1. 単元のねらい

- ・児童が身近に接しているものを題材として取り上げ、その良さ・問題点について改めて考えさせる。
- ・いろいろな角度から考え、自分の考えを整理して、筋道を立てて文章を書く。

2. 児童の実態

- ・本学級の児童は、素直に人の話を聞き、他者の意見を肯定的に受け入れようとする傾向が見られる。反面、ひとつの物事を多面的な角度から考えることは苦手である。
- ・1学期間、毎時間授業の導入で短文作りをしているため、書くことへの抵抗は薄れてきている。また、朝の活動の中で小作文を書く機会もあり、以前に比べれば「何を書けばいいのか分からない」といった状態の児童は少なくなった。ただ、“作文”に対して、頭から“嫌だ”“苦手だ”“めんどくさい”という意識をもつ児童は多い。

3. 単元の流れ

第1次	学習の見通しを持つ。 ・教科書を通読する。 ・題材を選び、意見文を書くことを知る。 ・誰にどんなことを書きたいのか考える。・・・①	1時間
第2次	必要な情報を収集する。 ・本、アンケート、インタビュー等で調べる。 ・「取材メモ」を書く。 ・ミニディベートを行う。・・・②	2時間
第3次	意見文の書き方について考える。 ・教科書の教材文から意見文の構成を知る。・・・③ ・過去に学習した説明文から書き出しの表現の工夫を見つける。	2時間
第4次	構成メモを書く。・・・④ ・取材メモからどの良さ、問題点を取り上げるのか決定する。 ・考えの中心をまとめる。	2時間
第5次	意見文を完成させる。 ・下書きをする。 ・読み返したり交流したりする。・・・⑤ ・清書をする。	2時間
	はじめに決めていた相手に読んでもらう。	

4. 指導の工夫

①相手意識と目的意識を持ち題材を選ぶ

対比的な意見文の書けそうな題材をたくさん挙げさせ、その中から“誰に”“どんな目的で”書きたいのかという観点をもって、題材を選ばせた。

【子どもたちが考えた題材と相手・理由例】

“漢字とひらがな”→あまり漢字を使わない兄に、漢字を使うよさを知ってもらうため。

“WiiとDS”→ゲームの好きな友だちに、よりよくゲームを使い分けてもらうため。

“めがねとコンタクト”→目の悪い祖母に、それぞれのよさを知ってもらうため。

②いろいろな角度から考えさせるためにディベートを行う。

取材メモを作る際には、まず、自分で考えたりアンケートや本、インターネットで調べたりして見つけたことを箇条書きで書いた。しかし、1人では見方や考え方がそれ以上広がらない。そこで友だちの意見を聞くため、4人の生活班でミニディベートを行った。そして、その中で出た意見を取材メモに書き加えた。

ミニディベートをしよう	
★題材「漢字」とひらがな	★自分の立場（ひらがな）
自分（ひらがな）	相手（漢字）
・すぐに書くことができる。 ・小さい子でも覚める。 ・とにかくかんたん。 ・お手軽。 ・やさしい感じがする。	・読み方がいくつもあるからよくわからぬ。 ・画数が多く漢字は、かんのがたいへんたしなかなが覚えられない。 ・数が多すぎる。 ・すぐくむずかしい読みがある。 ・かたい感じがする。

【ミニディベート用のメモ】



3回目・4回目のディベートの際には、あえて「1人で対戦したい」という子も現れ、1対3で行う班も見られた。

漢字	ひらがな
良さ ・ひらがなだったらいろいろな読み方がある。 ・何文字もかかるといえないものでも簡単にかけられる。 ・中国から来日したから中国に使える。 ・ものや形にそっている。 ・目させることで音心を伝えられる。	問題点 ・読みがたい。 ・めんどう。 ・たくさんあります。 ・やさしい感じがする。 ・よみやすい。 ・かんたん。 ・続けすぎると読みがたい。
良さ ・おぼえやすい。 ・かん数が多い。 ・多用途として相手を見下したようになり。 ・④ようち。	問題点 ・④多用すると相手を見下したようになり。 ・④ようち。 ・かんたん。 ・続けすぎると読みがたい。

まず、それぞれの良さ・問題点を個人で考えた。その後、本から得たものは④マーク・インターネットから得たものは④マーク・ディベートで得たものには④マークを入れながら、メモを増やしていった。このメモの中から、意見文に採用するものを選んだ。

③教科書教材文の書きぶりのよさについて話し合い、そのよさを納得させる。

教科書に掲載されている意見文を読みながら、大切なポイントを挙げていった。子どもたちが見つけたポイントは下記の6つ。

- ・3つの段落構成…大きくは序論・本論・結論の3つ。そして、それぞれをつなぐ連結車両に当たる段落から成り立っていること。
- ・接続語…“まず”“では”“また”などの接続詞を効果的に用いていること。
- ・引用…先生の言葉・父のメールの使い方・母の絵手紙など、裏づけとなる資料を使うことで、読み手をより説得できていること。

⑤読み返したり、交流したりする。

出来上がった下書きを自分で読み返し、誤字脱字や文のねじれがないかチェックしたり、教科書教材文の書きぶりの良さをまねられているか確認したりした。そして、互いに交換して読み合い、内容や書きぶりについて付箋紙に感想を書き合った。この交流では、段落構成・接続語などの意見文を書く際の6つのポイントに照らし合わせて良いところを書いたり、もう少し直したほうが良いところをアドバイスしたりした。そして、自分の中心となる考えが相手に強く伝えられるよう、この交流でもらった友だちからのアドバイスや助言を生かし、意見文を完成させた。

◆交流時のコメント

海の問題点として、お姉さんが日焼けしたいへんだって具体例を引用してあるので、分かりやすかったです。山についても読み手を納得させる引用があればいいなあと思いました。

友だちの意見文をより良いものにするため、③で考えた6つの良さの中から、アドバイスするポイントを選んで記入している。

あるある系の書き出しが
おもしろかった。最初に読者の
きょう味をひいているのはいい。
と中の文末で読んでおもしろい
たすねる言い方を入れると
変化がついて、もっとよくなる
と思う。

◆完成した意見文

接続詞を効果的に用いている。

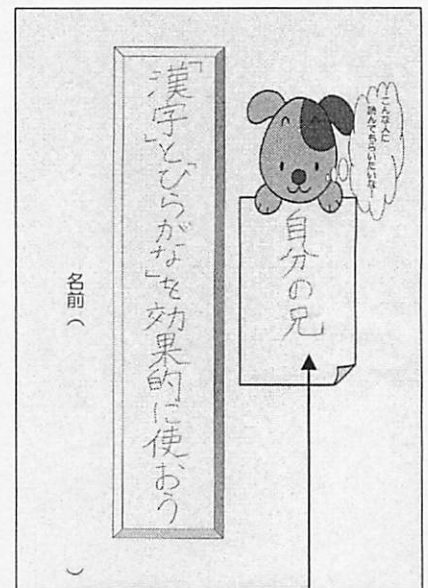
漢字の良さ

書き出しは“おたずね系”

みなさん「漢字」書いていますか。ぼくはふだん使っている文字の中からひらがなと漢字について考えてみたいと思います。

まず、ひらがなと比べて漢字のよいところは、一文字でいたい二五文字ひらがなで略すことができるということです。例えば、漢字で「車」と書くのとひらがなで「くるま」と書くのでは、「車」と書いた方が、ニマス略すことができる長所があります。さらに、目せることで相手に意味を伝えることができること、また、みなさん、道路に白線で「止まれ」と書いているのを見たことがありませんか。もし「止まれ」がひらがなで「とまれ」と書いていたら、全て読めば意味が分かりません。一方漢字で「止まれ」と書いていたら「止」という漢字を見たときに止まらなさいといけなという考えが頭にうかびます。これが漢字の長所です。

では、漢字とくらべて、ひらがなには、どんな長所があるのでしょうか。



相手意識を持って書いている。

道路表示を引用しながら漢字の良さをアピールしている。

問いかける文末

比較

5

4

3

ひらがなは、五千音を組み合わせるのて、読みやすいという長所があります。文字は五千個しかないのて五千音を覚えれば、ほとんどの文章が読めます。だから、小さい子どもはひらがなを覚えろといひと思ひます。

こうした良さに対して問題点もあります。ひらがなと比べて、漢字は、一文字でいろいろな読みかたがあるので、読みにくいという事です。例えば漢字の「上」と書くと、うえ、いよう、かみ、読み方があります。しかしひらがなは、ある読み方を書けばよいのて分かりやすいです。

一方ひらがなは、続けて使ひすと、読みにくいという短所があります。大阪にひるはくの兄から一通の手紙がきました。その手紙を読んでみると、あまりにひらがなが多く、内容があまり分かりませんでした。

このように漢字とひらがなには、それぞれ良さと問題点があります。だから、ぼくは、小さい子に手紙などを出すときは、漢字にふりかたを書いて、目上の人に改まったあいさつをするときは、漢字をよく使うようにすると思ひます。

ぼくは、文章の内容や出す相手によって漢字とひらがなを効果的に使ひ分けていきたいと思ひます。

結論部分。ひらがなと漢字の効果的な活用の仕方について述べている。

兄からの手紙を引用しながらひらがなの問題点を挙げている。

比較

◆自己評価カード

意見文 振り返りカード

名前()

題名: 漢字とひらがなを効果的に使ひたい

だれに何を伝えたくて書いたか: 自分の兄に、漢字の良さを知らせてもらい、適切に漢字を使ひたい。

満足度チェック

	とてもいい	いい	普通	もう少し	努力が必要
1. 3つの段落構成で書いたか。					
2. 接続語が適切に使えたか。					
3. 説得力のある引用ができたか。					
4. 内容に応じて文末を変えたか。					
5. 比較しやすか書いたか。					
6. 書き出しの工夫ができたか。					

感想: たくさんの引用を使えたので良かった。内容に合わせて文末を変えたらもっとよくなったかもしれない。兄に読んでもらおうとおれ、そんなにひらがな多いか」と反省して、いたのでうれしかった。

◆相手からもらったコメント

私はエコバックを使ったことがないので、どんな利用法があるかなと思って読んでみたけど、たしかに、思っていることがたくさんあったよ！スーパーのふくろうと上手に比べて書いていたから、すごく分かりやすかったよ。

エコバックを使ったことのない人を相手として書いた意見文に対して、エコバックを使ったことのない児童が感想を書いた。

この児童は、兄に意見文を見せたところ「おれってそんなにひらがなが多いかな。具体的な内容を取り入れてうまく書いているから納得せざるを得ないな。」という内容の言葉をもらい、自分の気持ちが伝わったとたいへん喜んでた。

学習後、「伝えたい」と思った相手に読んでもらい感想を書いてもらう時間をとった。「泳ぐのが好きな人」「ペットを飼っている人」など不特定多数の人を想定して書いた児童の意見文は、それに該当するクラスの児童が読み、感想を書いた。「祖母」「兄」など特定の人物に対して書いた児童はその相手に読んでもらい感想を話してもらったり書いてもらったりした。はじめに決めていた相手に読んでもらったことで、満足感を味わうことができた。

5. 成果と課題

【成果】

- ・ 取材メモ作りの際にミニディベートを行ったことで、いろいろな角度から考えることができ、ものの見方や考え方に広がりが見られた。ディベート単元を先に学習していたことが生かされたと思われる。
- ・ 教材文で使われていた引用について、もし引用がなかったらどうだろうかと考えたことで、引用という方法がいかに読み手を説得する良い手法であるかを実感することができた。今年度、依頼文作りの学習をした際にも、多くの児童が自分の経験や家族の言葉などを引用しながら依頼文を書いた。
- ・ 教材文の書きぶりのよさを学ぶ際に、書き出しの工夫にはパターンがあることを子ども自身が気づき体系化した。自分たちでネーミングをつけるなど楽しく学習したことが印象深かったのか、説明文を読んだ際に、“この文章は、読者の関心をひくために〇〇系を使った書き出し方をしている”と、筆者の書きぶりに興味を持つようになった。また、自分が文章を書く際にも、どれかの方法を使ってみようとする児童が見られるようになった。

【課題】

- ・ 学習後、意見文の書き方を学んだことが活用され生かされるよう、児童会活動の中で代表委員会の予告書を書かせた。ただ、残念ながらこの機会は一部の児童に限られていた。そこで、身に付けた知識・技能について「意見文の書き方を知っておくとういうときに役に立つのだな」と、多くの児童にその有用性を実感させるために、学習したことが生かされ、目的を持って意見文が書けるような場を設定していきたい。例えば、学校をよくするため各委員会から意見を発信したり、最高学年として人権週間時にいじめゼロについての提案をしたり、卒業文集で在校生へのメッセージ作りをしたりするなど、6年生として意図的に意見文を書く機会を与えたいと考える。